

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100814		
法人名	株式会社福岡総研		
事業所名	鍋島紀水苑 さくら		
所在地	佐賀県佐賀市鍋島町蛸久1992番地1		
自己評価作成日	令和1年11月12日	評価結果市町村受理日	令和2年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和1年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域社会の中で四季、文化を通して感情感性を呼び起こし心豊かな生活を支援する事を理念としている。食器にもこだわり有田焼の源右衛門、深川製磁を使用し、佐賀の文化を取り入れている。午前、午後のおやつ時間も大切に、和・洋とていねいなおもてなしを心がけている。広々とした苑庭でレクレーションやおやつ時間など野外活動ができる。食事の面では新鮮な野菜など1日30品目以上の食材を使った献立で見た目にも完食される様に工夫している。日当たり、風通し共に大変よく、生活環境にも配慮している。春には近くに桜並木があり、居室から遠目に眺める事ができる。パルーン時期は沢山飛んでくる事が、皆さん楽しみにされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道より少し奥に入った田園地帯の中に位置する。近くには川沿いに桜並木や北に天山がそびえ、四季折々に風景を楽しむことができる。敷地も広く、気候の良いときには庭でゆったりとお茶を楽しんだりしている。ホームは掃除も行き届き、リビング、廊下の壁には入居者と職員の共同作業した作品が飾られている。リビングは陽当たりもよく日中入居者はそこで過ごしている。食事する際の補助テーブルや袖のカバーなど職員が創意工夫し手作りしている。一日30品目という食事内容で献立も工夫し、食器へのこだわりもあり入居者は完食されている。細やかな心遣いが感じられるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿ったケアが常に出来る様に玄関、ホールに理念を掲げ職員皆で共有し実践している。職員採用時に理念について話をしている。	理念は誰もが目につきやすい玄関やホールなどに設置している。管理者と職員は、理念について日頃のケアを通して理解し実践している。月1回の職員会議で再確認する。新人職員へは採用時説明し、業務の中で指導する。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の職員がいて、地域の方々がいつでも立ち寄れるように声かけをしている。野菜等の差し入れに入居者は喜ばれている。	地域の自治会に加入し、年1回の総会にも参加している。ホームのクリスマス会に地域住民を招待し踊りなど披露してもらっている。野菜の差し入れや火災時の協力など地域との交流は図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年度末の自治会総会(50~60名)におたっしや本舗鍋島と共に出席し、介護、認知症について話をし理解を求める。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回の運営推進会議に自治会長、民生委員が出席され、クリスマス会には地域の方々が14~15名参加され、出し物にも積極的に参加されている。	運営推進会議は自治会長、民生委員、地域包括支援センター、入居者家族が参加し年6回日曜日開催している。議事録は参加していない家族も見れるようにしている。ホームの現城報告し参加者と情報交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	おたっしや本舗主催の会議にはなるべく出席し、日頃から入居者の問い合わせ等を頂いている。	地域包括支援センターの勉強会への参加や運営推進会議での情報交換する、何かにつけてお互いに相談できる協力関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族との話し合いにより車イスの安全ベルト使用の方がいて、ご家族には度々状況説明している。玄関は常に開錠している。緊急時は臨機応変に施錠している。	玄関は開錠されているが、防犯も考慮しながら臨機応変に対処している。車椅子安全ベルト使用者がおり、身体拘束マニュアルや見直しについての検討会は実施しているが、会議録などの書類が不十分である。	拘束しないケアへの見直しなどの検討会を継続すると共に、身体拘束会議録などの書類を整備していくことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月スタッフ会議、勉強会で取り上げ意見交換をしている。又、研修会には参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に成年後見制度利用者があり概ね職員は理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をしている。又、改定時は丁寧に説明をし必ず同意書を貰っている。解約は利用者の申し出に沿って行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族とは面会時に意見を聞いたり相談に乗ったり、話し合いをしている。開設当初から毎月写真をメインにした苑便りを送り、状況をお知らせしている。	入居者はもちろん面会に来る家族にも話しやすい雰囲気を中心掛けている。苑便りを作成し入居者の様子を写真入りで、毎月家族に送り意思疎通を図りその意見や要望をホームの運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議に出席し意見を聞き尊重している。又年2回懇親会を設け意見交換をしている。代表者は職員の職務姿勢に感謝し職員の意見に沿うように努めている。	代表者や管理者は日頃より職員の意見を重視している。毎月の職員会議や勉強会、年2回の懇親会で職員の意見を聞き運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は利用者家族と信頼関係を築き職員がケアし易い環境を整える事を常に考えている。1時間の昼休みはスタッフルームソファ等で休ませ午後の仕事し易いように気遣っている。常々定刻に帰宅するように声かけし、殆んど守られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会にはいつでも参加出来る様に促している。参加費は内容に応じて助成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	フランチャイズどうしで交流研修があり、希望職員が順番に他施設に研修に行き、良かった点を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から意見、要望を真剣に聞き取り、安心、信頼が保てる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族の意向や要望を聞き、対応についての確認をして、負担の軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向要望を確認し、収集分析した情報、原案を検討し要望に沿えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、片づけ洗濯物干し、たたみ等自分で出来る事は時間がかかってもして頂いている。時にレクリエーションのリーダーになって貰っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時は居室で過ごして頂き、自宅でくつろいだ気分の雰囲気作りに努めている。苑のもてなしの心にも配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で使っていた馴染みの物を持って来て頂いている。又、家族や親戚の方が面会に気易い様な雰囲気作りをしている。	居室には家族の写真が貼られ、人形など置いている。面会時には、居室にテーブルを置きお茶や菓子を運び家族でゆっくり過ごせるように配慮している。入居前にしていた寺参りなど家族の協力を得ながら継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で問題があるときは、職員が間に入り他の事をして貰ったり、気分転換を図ったり席替え等臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為に退去されても見舞いに行ったり、家族が遊びに来られたり、こちらから連絡したりと関係性を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、家族との対話を大切に、意向や思いの把握に努めている。意思表示が困難な場合は日ごろの表情、ご家族の話からくみ取るようにしている。	入居者との日々の会話や表情などから思いや意向を聞いたり、意思表示のできない人は表情から思いをくみ取り、また家族から情報を得るようにして意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、ご家族から話を伺い、これまでの生活についての把握に努めている。又、生活歴シートを活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者と個別に関わる時間を確保している。又勤務日以外のことは記録やスタッフへの聞き取りで把握出来る様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には事前に意向を聞いている。主治医には受診往診時に助言を求めるなどしている。担当者会議はスタッフ会議にあわせて実施している。	月1回の職員会議で入居者の記録ノートを見ながら情報交換しモニタリングを行っている。記録ノートは家族にも開示している。本人や家族に意向を事前に聞き、主治医など関係機関の意見を参考にした介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の行動記録にならないようにケアの実践、結果、気づきを記入し共有できるよう、スタッフ会議等で周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の知人、往診クリニックDr、スタッフさんによるコンサートでは利用者を楽しい時間を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に一度の推進会議に地域の方に参加して頂き交流を図っている。クリスマス会は余興等多数参加して頂いている。消防士OBには避難訓練時指導をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する、かかりつけ医の受診は可能であり、又往診等医療機関の選択が出来、変更も可能。	入院設備のある協力医療機関があるが、訪問診療やかかりつけ医にするかは本人や家族が自由に選択できる。かかりつけ医への受診は家族協力で行われる。看護師や薬剤師を通じて主治医との連携はとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックを基本に僅かな変化も見逃さないように気配りをし、少しの問題点でも看護師や医師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診の医師や薬剤師とは日頃から話しやすい関係にあり、相談し易く家族も安心されている。入院時には面気に行き医師、看護師と話し早期退院を促す。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	数名の看取り経験あり。職員も理解できている。2名の重度化、看取り期があったが、現在回復されている。	入居時に重度化した場合や終末期について家族との意向について確認している。状況に応じて医師の説明も含め家族と話し合い希望に添うようにしている。ホームでの看取りの経験もあり、今後希望があれば受け入れはできる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車通報訓練は消防訓練時に全員行っている。救急車対応も経験あり、その都度皆で話し合いスムーズに対応が出来る様に準備の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、スピーディに出来ている。ご近所、地域住民との交流もあり、災害時の協力をお願いしている。エリアメール等出された時はご家族にも協力をお願いしている。	避難訓練に地域の協力をを受け、夜勤職員も参加し実施している。コード類や棚に置いてある荷物等は危険がないように整理されている。水や水で柔らかくなる菓子を備蓄している。今年初めて近所の川の氾濫恐れメールが来て、家族の協力で避難している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手にこちらのいう事が分かっていると思いながら会話をしている。お年寄りには皆人生にプライドを持っている事を常に意識しながら対応している。	入居者の尊厳を配慮した態度をとり、言葉は敬語を使用している。排泄は個々人の排泄パターンに応じてトイレか居室にて実施している。本人の希望によっては人が入らないように外から鍵をかける等プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話中で希望や思い等聞き出し本心を見極めながら出来るだけ沿ったケアを心掛けている。(個別レクリエーション、服装)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者だけを優先にするとどうしても無理がいき職員の負担も大きくなる為、実務をこなしながら並行して本人の希望に沿った生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お出かけや、イベント時は服を選んで貰い、アクセサリーやスカーフなどでオシャレを楽しんで貰っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つと考え好物を聞いたり皆で献立を考えたり、テーブルを囲んで盛り付けなどを楽しんで貰っている。器は有名な有田焼を使い目でも楽しめる様に心配りをしている。準備や後片付け等出来る人には手伝って貰っている。	食事内容や盛り付け、器(源右衛門や深川製磁)にこだわり、食事を味わうだけでなく、目でも楽しむことができる。入居者が希望する料理を数種類作り、お弁当にしている。職員と共に下膳をしたり、食器を拭いたり手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では1日30品目目安の献立で完食出来る量を提供している。水分補給は日々十分に行っていて特に病気の時は量も記録し全体重をチェックしている。入居時から栄養状態が改善されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はそれぞれにあった歯ブラシを使用し、口腔ケアをしている。2週間に1回の歯科往診可能。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表をを見ながら排泄パターンを把握し促す。夜間頻尿者はポータブルトイレを使用して貰っている。	入居者各々の排泄パターンに応じ、トイレ誘導やおむつ交換など行っている。日中はトイレでの排泄をするようにし、夜間のみ転倒などのリスクがある場合はポータブル使用している。食物繊維やヨーグルト等食事内容にも注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	殆んどがカマグを服用されているが、他には毎日ヨーグルトを提供している。マイナス時が続くと牛乳、ヨーグルト、繊維質食物を多く提供している。お腹、お尻のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午前中だが、場合により午後に変更。	入浴は入居者の希望や体調などを配慮して柔軟に対処している。冷え性や水虫のある人には足浴も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的にはマイペースで過ごされている。居室で休まれたりホールソファで休まれている。昼夜逆転しないように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が届けられた内容をチェックし名前と日付を入れ各々1週間分を作り事務所に保管している。小分けした1週間分を食堂に準備し名前、日付を確認して手渡し、吞まれてしまうのを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞、雑誌はいつでも見られるようにホールのテーブル、棚に置いている。編み物、読書、パズル等好きな事をされる時間を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出が無理な方は好天気日に南の広い苑庭でお茶の時間やレクリエーションを楽しんで貰っている。又ホールの出窓カウンターでtea timeを提供している。季節の花を使った生け花教室で季節を間近に感じて頂いている。	本人の希望があれば家族の協力を得て外出している。体力的に無理な時は庭やリビングで桜や花火、目の前まで飛んでくるバルーンを眺めたり、日光浴したりして過ごされる。季節ごとの花を生け花にして楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の事が理解できる方には必要時に家族から現金を渡して貰い、買い物時に本人が支払される。混乱が生じたときは家族に相談している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族に了解を取っていて、要望があればいつでも電話が出来る様に支援している。レクレーションで家族に手紙を書いてもらう事がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールの壁を入居者と共に作成した折り紙や飾りで演出していて季節感を取り入れる工夫をしている。屋内はとても明るく風通し、日当たり良く洗濯物、寝具、調理器具等日干しが出来衛生的である。	玄関、リビングなどの壁に、季節ごとに入居者と職員の共同作業による作品が数多く展示されている。南向きの大きな窓で、陽当たり、風通しもよく、午前、午後とおやつの時間には音楽を聴きながらゆったりと過ごせる空間が確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓以外にも丸テーブルがあり又、窓際はカウンターになっていて広い庭を眺めながらお茶や11月のバルーンを楽しむ事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に相談し、使い慣れた物を持って来て頂いている。時々交換をお願いしている。	入居者の使い慣れたものを、居室に持ち込まれている。また、入居者の身体状況に応じてベッドの配置等を工夫されている。入居者が自分の部屋を間違えないように、写真や飾り等を掲示する等、居心地よく過ごせるよう居室の配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂などは分かり易く表示し、居室入口には本人と分かるように写真を貼り、自室を確認して頂いている。		